

注 意 報

7 病 第 1 1 号
平成 2 7 年 5 月 2 5 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。



発生予察注意報第 1 号

**ネギでネギアザミウマが平年比やや多い発生。
本種及び本種が媒介するネギえそ条斑病の発生に
注意が必要です。**

- 1 作物名 ネギ
2 病虫害名 ネギアザミウマ・ネギえそ条斑病
3 発生地域 山城・南丹地域
4 発生量 ネギアザミウマ 平年比やや多い
 ネギえそ条斑病 多い

5 注意報発令の根拠

- (1) 本年 4 月以降の巡回調査で、山城地域のネギでのネギアザミウマの発生は平年比
やや多く、ネギえそ条斑病の発生を府内で初めて確認した昨年に近い状況で推移し
ている（表 1）。また、キャベツの下葉で本種による被害が多い。
(2) 5 月の巡回調査で、ネギえそ条斑病と疑われる症状を各地で散見している。
(3) 5 月下旬に、えそ条斑を示す山城地域 2 地区のネギ及び南丹地域のタマネギについ
て、ELISA 検定を実施した結果、発病を確認した。

表 1 ネギでのネギアザミウマ発生状況(山城地域 25株/ほ場調査)

項目 \ 調査時期	4月第3半旬			5月第3半旬		
	本年	昨年	平年値	本年	昨年	平年値
確認ほ場率(%)	100	100	43.8	100	100	43.8
被害株率(%)	36.0	54.0	11.3	98.0	82.0	55.2
被害度 [※]	9.6	15.0	3.1	27.0	48.0	21.9

$$\text{※ 被害度} = \frac{4A + 3B + 2C + D}{\text{調査株数} \times 4} \times 100$$

- A : 1株の51%~100%の葉に被害が認められる。
B : 1株の31%~50%の葉に被害が認められる。
C : 1株の11%~30%の葉に被害が認められる。
D : 1株の1%~10%の葉に被害が認められる。
E : 被害なし

6 防除上の留意事項

- (1) **ネギアザミウマは葉を食害して、ネギの商品価値を低下させるだけでなく、ネギえそ条斑病の病原ウイルスである Iris yellow spot virus (IYSV) を媒介する。**
- (2) **ネギえそ条斑病の防除には、媒介虫であるネギアザミウマの防除が有効**である。
- (3) 昨年夏期に実施したネギえそ条斑病の発生状況調査では、**南丹地域以北の中丹・丹後地域のネギでも病原ウイルスの感染を確認している**ので、**ネギアザミウマ及びネギえそ条斑病の発生には十分注意する。**

(詳細は平成26年9月9日発行の「防除所ニュース第6号」

http://www.pref.kyoto.jp/byogai/documents/news20140909_1.pdf を参照のこと)。

7 防除対策

- (1) ネギアザミウマはユリ科、ナス科、ウリ科やアブラナ科など広範な植物に寄生することから、**発生源となるほ場周辺の除草**を行う。
- (2) ナス、キュウリやキャベツ等の農作物にも寄生することから、**ほ場周辺のこれらの農作物でも防除を徹底**する。また、**本虫が寄生した収穫後の残渣は土中に埋めたり、堆積した上、ビニルで被覆する等処理**し、本虫の密度低下に努める。
- (3) 薬剤散布によるネギアザミウマの防除を実施する。**定植時には粒剤による初期防除を、生育中は粒剤や散布剤による防除**を行う。

防除薬剤を使用する際は使用基準を厳守すること。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報検索システム」 (<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm001.html>) を参照のこと。

- (4) ネギアザミウマは薬剤感受性の低下が懸念されている。薬剤散布後は効果を十分に確認し、**感受性の低下が疑われる場合は系統の異なる薬剤を散布**する。また、**感受性の低下を避けるため、系統の異なる薬剤をローテーション散布**する(表2)。
- (5) **施設栽培では、開口部の防虫ネット設置やUVカットフィルム被覆**を行う。**露地栽培でも、防虫ネットによる被覆が有効**である。防虫ネットは、**赤色ネットを用いると、より効果が高まる。**



ほ場での発病の様子



えそ症状部の様子

表2 「ネギ」でネギアザミウマまたはアザミウマ類に登録のある主な薬剤

系 統 名	薬 剤 名	希釈倍率・使用量 (kg/10a)	使用時期	使用回数
カーバメート系	ランネート45DF	1,000 ~ 2,000倍	収穫7日前まで	4回以内
有機リン系	マラソン乳剤	2,000 ~ 3,000倍	収穫7日前まで	6回以内
	ダイアジノン乳剤40	700 ~ 1,200倍	収穫21日前まで	2回以内
	エルサン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで	1回
	スミチオン乳剤	700 ~ 1,000倍	収穫21日前まで	2回以内
	サイアノックス乳剤	500 ~ 1,000倍	収穫21日前まで	2回以内
ピレスロイド系	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで	5回以内
	アディオン乳剤	3,000倍	収穫7日前まで	3回以内
ネオニコチノイド系	ダントツ粒剤	3 ~ 6kg	収穫3日前まで	4回以内
		6kg	植付時	1回
	アクタラ粒剤5	6kg	播種時または植付時	1回
	ベストガード粒剤	6kg	定植時	1回
	スタークル粒剤	6kg	播種時または定植時	1回
		6kg	生育期(収穫3日前まで)	2回以内
	スタークル顆粒水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤)	50倍灌注(セルトレイ・ペーパーポット)	定植前日から定植時	1回
		400倍灌注	生育期(収穫14日前まで)	1回
		2,000倍	収穫3日前まで	2回以内
	ダントツ水溶剤	2,000 ~ 4,000倍	収穫3日前まで	4回以内
	アクタラ顆粒水溶剤	1,000 ~ 2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前まで	3回以内
アドマイヤーフロアブル	200倍灌注(セルトレイ・ペーパーポット)	定植前日から定植時	1回	
	2,000 ~ 4,000倍	収穫14日前まで	2回以内	
スピノシン系	スピノエース顆粒水和剤	2,500 ~ 5,000倍	収穫3日前まで	3回以内
	ディアナSC	2,500 ~ 5,000倍	収穫前日まで	2回以内
マクロライド系	アグリメック	500 ~ 1,000倍	収穫3日前まで	3回以内
	アニキ乳剤	1,000倍	収穫3日前まで	3回以内
キナゾリノン系	ウララDF	1,000 ~ 2,000倍	収穫前日まで	3回以内
	コルト顆粒水和剤	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
その他	ハチハチ乳剤	1,000倍	収穫3日前まで	2回以内
	プレオフロアブル	1,000倍	収穫3日前まで	4回以内
	カスケード乳剤	4,000倍	収穫14日前まで	3回以内